（様式3）

令和7年度　学校園評価シート

学校園名	加古川市立鳩里保育園

1　保育理念	一人一人を大切にし、自分らしさを発揮するこどもを育てる

2　基本方針	○一人一人のこどもの生き生きとした生活と遊びを育む ○一人一人の育ちと集団としての育ちを大切にする ○日々の保育実践を振り返り、保育士及び保育園の自己評価体制を築いていく ○すべての保育士、調理員が協働体制を組んで、こどもの育ちを支援していく ○異年齢保育を通して、育ち合う仲間関係を築いていく ○小学校とのなめらかな接続を図り、5歳児の育ちを支援していく ○食育を通して、心身の健康やよい習慣が得られるようにする

3　保育目標	○生活リズムを整え、健康な心と体を育む ○遊びを通して人と関わる喜びを感じ、信頼感を育む ○自然と触れ合い、感じる心や伸び伸びと表現する力を育む ○どんなことにも挑戦する意欲を育む

評価基準
A:できている　B:だいたいできている　C:あまりできていない　D:できていない　E:わからない

重点目標	評価項目	達成状況	改善の方策
生活に必要な基本的生活習慣を身に付け、健康な心と体を育む	○健康や安全に生活するための約束を知り、守ろうとする。 ○自分から進んで挨拶をする。 ○身の回りのことを自分でしようとする。 ○様々な体を使った遊びを経験し、伸び伸びと体を動かして遊ぶ。 ○主体的にものやことに関わり、興味や関心をもつ。	B	・自分でしようとする姿を大切にしながら、基本的な生活習慣が身に付くように、日々の保育で取り組んできた。健康や安全に生活するための約束事も、折に触れて考え合うことで守ろうとする姿に繋がった。挨拶は保育者からすると返ってくるが、自分からする姿は少ない。引き続き気持ちの良い挨拶ができるように、職員も意識して取り組んでいきたい。 ・好きな遊びができるように、保育者間で連携しながら環境を整えた。自分なりに試行錯誤しながら遊ぶ姿が見られ、主体的に遊ぶ姿が増えてきた。また、年齢に応じた運動遊びに取り組み、体を動かす心地よさを感じることができた。今後も保育者間で連携を図りながら取り組んでいきたい。
様々な人と関わる喜びを感じ、思いやりや信頼感を育む	○様々な人と関わり、親しみや感謝の気持ちをもつ。 ○友達や異年齢児と関わる中で、優しさや思いやりの気持ちをもつ。	A	・毎年来ていただいている野菜ボランティアの方に親しみをもち、野菜の栽培を教えていただいたり、一緒に収穫を楽しんだりした。また、交通安全教室や食育教室、消防自動車見学などで様々なことを教えていただいた方々にも、感謝の気持ちをもってお礼を伝えることができた。 ・幼稚園児や小中学生と交流し、刺激を受けたり親しみをもったりすることができた。園内でも異年齢児と交流する機会を意図的に設け、優しさや思いやりの気持ちが育つように引き続き関わりをもっていきたい。
身近な自然や社会事象に対する興味や関心を育む	○季節の移り変わりや事象に興味や関心をもち、身近な自然を遊びに取り入れて遊ぶ。 ○生き物に関わる中で、親しみをもったり、命の大切さに気付いたりする。 ○野菜の栽培や収穫を体験し、様々な食材に興味や関心をもつ。	A	・季節の事象や自然物を遊びに取り入れ、試したり工夫したりできるように環境を準備したことで、興味や関心が広がった。また、様々な生き物に触れる中で、その面白さや不思議さを感じ、命の大切さにも気付くことができた。今後もこども達の発見や感動に寄り添いながら、自然や生き物に触れる機会を大切にしていきたい。 ・年間を通して季節の野菜の栽培を行い、生長を楽しみにして世話をしたり、収穫の喜びを味わったりした。自分達で収穫した野菜を給食室で調理してもらい食べたことで、より食材に興味をもち、苦手なものも食べようとする姿に繋がった。
自分の思いを伸び伸びと表現する力を育む	○感じたことを様々な方法で表現する喜びや楽しさを味わう。 ○自分の感じたことを体や言葉で表現し、友達と思いを伝え合いながら、イメージを共有して遊ぶ。 ○自分の思いを伝えながら、相手の思いにも気付き、違いや良さを感じる。	B	・日々の活動において、自分の思いを言葉や身振りで伝えようとする姿を認め、伝わる喜びが感じられるように関わった。今後も思いを伝え合いながら、イメージを共有して遊ぶ楽しさが味わえるように関わっていきたい。 ・自分の思いを伝えるだけでなく、友達の思いにも気付き、良さや違いを認められるように関わったことで、同じ目的に向かい力を合わせる姿に繋がった。
最後まで粘り強く挑戦する意欲を育む	○自分なりの目標に向かって取り組み、できた喜びや達成感を味わう。 ○苦手や難しいと感じることも、諦めずに繰り返し挑戦する。	A	・難しいと感じていることにも励ましたり気持ちに寄り添ったりしたことで、諦めずに挑戦しようとする意欲に繋がり、頑張った達成感を味わうことができた。 ・できたことだけを評価するのではなく、その子なりに頑張ったことや取り組んできた過程を大切にし、満足感が味わえるようにしていきたい。